

令和2年度第3回岸和田市介護保険事業運営等協議会会議録
第3回岸和田市地域包括支援センター運営協議会会議録
第3回岸和田市地域密着型サービス等運営委員会会議録

<p>【案件】</p> <p>(1) 地域密着型サービス事業所の指定・更新状況について</p> <p>(2) 高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画（素案）について</p> <p>(3) その他</p>	<p>【日時・場所】</p> <p>令和2年11月27日(金)14:00～15:40 岸和田市役所 新館4階 第1委員会室</p> <p>【出席委員】 13名</p> <ul style="list-style-type: none">・大谷委員・原田委員・浦田委員・木村委員・前田委員・山本博委員・太下委員・野内委員・田辺委員・山本一委員・山中委員・徳久委員・岡田委員 <p>【事務局】 15名</p> <ul style="list-style-type: none">・濱上保健部長・西川介護保険課長・前田調整参事・船津保険料担当主幹・蓮井認定担当主幹・濱崎給付担当主幹・太田地域包括ケア推進担当長・小笠原福祉政策課担当主幹・天野広域事業者指導課担当長・上出（地域包括支援センター社協）・三林（地域包括支援センター社協久米田）・休場（地域包括支援センター萬寿園葛城の谷）・西村（地域包括支援センター萬寿園中部）・丸山（地域包括支援センターいなば荘北部）・浅井（地域包括支援センターいなば荘牛滝の谷） <p>【傍聴人】 1名</p> <p>【その他】 1名（計画策定業務受託事業者）</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事務局	<p>定刻前ですが全員揃われたので、ただいまから令和2年度第3回岸和田市介護保険事業運営等協議会・地域包括支援センター運営協議会・地域密着型サービス等運営委員会を開催いたします。</p> <p>それでは、開会いたします。</p> <p>本日の協議会の傍聴についてですが、傍聴の方は1名です。</p> <p>傍聴の方には、条例施行規則の第4条に基づきまして遵守していただく事項があります。「拍手その他の方法により公然と賛否を表明しないこと」、「発言しないこと」、「他の傍聴人の迷惑となるような行為をしないこと」、「会場において写真撮影、録画、録音等を行わないこと」の以上4点ですのでよろしくお願ひします。</p> <p>続きまして本日の会議成立の報告です。本日の協議会は、全委員15名中13名の出席となっております。よって過半数の委員がご出席ですので、岸和田市介護保険事業運営等協議会規則第6条の規定により本協議会が成立していることをご報告します。</p> <p>続きまして資料のご確認をお願いします。</p> <p>【配布資料確認】</p> <p>それでは、これより大谷会長に議事の進行をお願いします。</p> <p>【大谷会長あいさつ】</p>
会長	<p>それでは、次第に沿って議事を進めてまいります。</p> <p>案件1「地域密着型サービス事業所の指定・更新状況について」ご説明をお願いいたします。</p> <p>【地域密着型サービス事業所の指定・更新状況について 事務局より説明】</p>
会長	<p>これについて、ご質問等があればお受けしたいと思います。</p>
委員	<p>廃止の理由を教えてください。人が足りないのか、利用者が集まらなかったのか、原因がわかれば今後の問題もみえてくると思います。</p>
事務局	<p>今回予定の2件ということですか。</p>
委員	<p>はい。</p>
事務局	<p>まず、地域密着型通所介護です。職員不足とコロナの影響で経営不振のため、廃止</p>

	<p>ということです。そして認知症対応型通所介護です。利用実績が芳しくなく、今後の運営が難しいということで廃止になりました。</p>
会長	<p>よろしいですか。 他ご意見はいかがでしょうか。 共生型のほうは、まだ1か所だけですか。</p>
事務局	<p>そうです。1件だけです。</p>
会長	<p>このあたりが次の課題にもなってくると思います。 他になければ前に進めてよろしいですか。またお気づきの点があれば、最後にお聞きしたいと思います。 それでは、案件2「高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画（素案）について」事務局よりご説明をお願いします。</p> <p>【高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画（素案）について 事務局より説明】</p>
会長	<p>1～4章については、既にお目通しいただいていると思います。第5章については、本日配布の資料ですので事務局から説明いただきました。併せてご意見があれば、お願いします。</p>
委員	<p>紙おむつ事業について。年上限が60,000円になるとのことですが、月額が6,000円だったので元々は72,000円だったのが変更になるということでもいいのですか。</p>
事務局	<p>段階別で上限が違います。上限60,000円は、第4・第5段階の方になります。現行岸和田市で月6,000円の72,000円で受けられている方については、引き続き同様に受けられ、制限がかかることはないです。</p>
委員	<p>わかりました。では今までどおり変更なしという認識で大丈夫ですか。</p>
事務局	<p>基本的に今回、市のこれまでの基準からはみ出る方は、均等割りで課税世帯になります。それが約80名程度になりますので、その方については保健福祉事業の別予算で手立てすることを検討しています。</p>
委員	<p>よくわかりました。 もう1点、地域ケア会議について。今回もしっかりやっていくという方向で計画にあがっていますが、薬剤師も年々地域に出て行くことに積極的になっていますの</p>

	で、薬剤師側にも声掛けをお願いします。
会長	要望でよろしいですか。
委員	はい。
会長	他はいかがでしょうか。 ポピュレーションモデルで、いきいき体操、かみかみ体操に取り組まれています、認定率が 23.8%のままです。全国的には 17~18%の中で、体操を進めても認定率としては変わらない。そのあたりの見込みをお聞かせください。
事務局	昨年度 1 年で箇所数はそこそこ増えたのですが、各町会なりグループの組織づくりの人数が増えていないので参加率が低いままで止まっています。岸和田市としても広報等で呼びかけて、予防に関する周知・啓発を進めていきたいと思っています。
会長	結局皆さんの介護保険料に跳ね返ってきます。介護保険の将来を考えた時に、認定率を下げることは皆さんの介護保険料も下がるということなので、皆さんのご協力をいただきながら認定率を下げていくような、希少なモデルと言われるくらいまでいけばいいと思います。実際に大東市は 17.8%です。そのあたりの取組みは、地域包括ケアシステムとも連動すると思います。ご留意いただければ有難いです。
委員	認定率で疑問に思ったことがあります。将来的に 2040 年 23.8%と 3%くらい上がるだろうという根拠や原因はどんなものがあげられるのですか。
事務局	推計値は見える化システムを使って、直近の認定率を入れて推計されています。
委員	12 ページです。2040 年度に 65 歳以上が 55,663 人で、だいたい 20%を掛けると認定率になると思って出してみました。11,132 名になり、今と 1,000 人くらいしか変わらないという印象を持ちました。認定率を抑えることにより、保険料も抑えられる。11 ページのひとり暮らし世帯がどんどん上がっています。平成 27 年の 40%から令和 2 年には 45%です。これがどんどん上がることによって、認知症のリスクも上がるし、生活不活発のリスクも上がるので、要介護認定率は増えていくと思いました。そしたら機能としては、いきいき百歳体操とかの強化をしたらいいのかなと思いました。
会長	ご意見ということで。 学生がだんじりと社会参加の比較検討をしたいということで、特養に入っている高

	<p>齢者とだんじりに取り組んでいる高齢者のどちらで社会参加が活発かという調査をしました。だんじりをしていると色々ネットワークができるので、やはり要介護状態になるのは遅い。それを卒論でまとめて発表したことがあります。そういう意味で言うと、かみかみ体操や百歳体操がどんなふうによ介護を予防しているのか。3年～5年という長い年月が必要になるかもしれませんが、そのあたりの効果測定をする仕組みができれば有難いと思っています。ニーズ調査では広く世論調査的にしますが、ヨーロッパの場合はパネル調査と言って、参加者を経年で追っていくアンケート調査を実施しています。そうすると、その方の変化が比較的捉えやすい。貧困調査ではよく使われていますが、調査の仕方も少し考えてもいいと思います。それが役に立っているかどうかの確認はまだこれからです。そのあたりも共有化できればと思います。</p> <p>他いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>私どもの地域では百歳体操を5年間調査して異常がなかった。参加者は良いが、参加していない方がたくさんいる。実施箇所が増えたから介護予防になっているのではなく、そこに参加していない、できない人達にどう参加してもらえよう活動になっているのか。自宅にこもっている人達を、どう吸い上げて参加させるのがすごく気になります。今回もコロナで閉じこもったことで体力が低下して介護予防の対象が増えた実績があると思います。そのあたりを地域でどう汲み上げていくか包括で検討してほしい。実施箇所の評価をしてほしいというのがあります。</p> <p>要支援者が増える見込みがあるとのことですが、6圏域でそういう人達を汲み上げていける事業として成り立っているのか気になります。27ページの介護予防のマネジメントも、30年度から比べると増えています。人材が必要だと思いましたが、どのように取り組んでいるのかお聞きしたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>おっしゃるとおり、要支援対象の方は年々増えています。また要介護・要支援認定の中に占める要支援の方の割合も非常に高いです。その中で地域の拠点として6か所ある地域包括支援センターには努力してもらっています。8期の中でも機能強化・充実を目標としてあげていますが、具体的な目標値はあげていません。色々な形が考えられます。事務員等の強化、箇所数等、そのあり方について8期の中で皆さんのご意見を賜りながら検討していきたいと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>際限なくつくるわけにはいかないの、6か所でいいのか7か所がいいのか、そのあたりも含めて総合的に勘案して、国の施策でもある「我が事・まるごと政策」と関連して、より地域に近いところで、ワンストップで問題を受けて解決していく仕組みづくりが求められています。この8期の中でそのあり方について、皆さんのご意見も聞きながら検討したいというところです。</p>

委員	要介護認定で要支援が増えているとのことですが、一次判定はコンピュータ判定だと思います。その基準が変わっているということはあるのですか。ずっと同じですか。
事務局	一次判定の内容については、変わっていません。
委員	数年前から変わってないということですか。
事務局	かつては少し厳しくなったのではないかという話も聞いたことがありますが、ここ最近は変わっていません。
会長	認定審査の物差しは変わっていないということです。 他はいかがでしょうか。
委員	元気なお年寄りを増やしていく取組の中で、前期と今期を比較してどんなふうに変化したか、元気な方が多くなってきたとか、支援のままで留まっているとか、そういうところもわかればいいと思います。 まちかどデイで介護を受けていない人が人との関わりを持つことも必要ですので、続けてもらえたらと思いました。
会長	1点目は、いわゆる変更率です。要支援から要介護とどれくらい重くなっているかというデータもわかるのであれば示してもらえると有難いということです。 それから、まちかどデイのように共に活動する参加の仕組みを減らさず、保てるようにしてほしいという要望でした。
事務局	変更率のデータは持ち合わせていません。要介護認定は3師会にお世話になりながら毎日審査会を開いています。色々なパターンがあり、区分変更もあれば、要介護から軽くなる方ももちろんいらっしゃいます。 あと補足です。11ページにあるように、ひとり暮らし世帯がどんどん増えている傾向があります。ひとり暮らしでも不活発な方、要支援から要介護になりそうな方で、なんとか生活能力はあるものの生きがいや目標があればもっと元気になるような方については、地域包括支援センターやケアマネのご協力を得て、自立支援型地域ケア会議で月2回3ケース程度のペースで色々な専門職も交えて、どう支援すべきか話し合っています。近くのお店に自分で買い物に行きたいとか、少し遠くまで散歩に行きたいという目標を持ってもらい、それに対してアドバイスや支援をするように市として重点的に取り組んでいます。それ以外にも短期集中型のデイサービス

	<p>を使い、その方に合った訓練を集中して行い、なるべく生活機能を上げるような個別対応を大阪府の支援を受けながら取り組んでいるところです。それが普及できればと考えています。</p>
事務局	<p>介護保険課認定担当です。今持ち合わせている資料は、先ほどご質問があった例えば要支援1・2の方が更新手続きの後介護へ移っているのかというデータしかありませんが、令和元年度は要支援1の方は更新後も要支援1の方が多く、あまり大きくは更新後も動いていない状況です。要支援の方が増えているのは、新規申請の数が増えてきているところが大きな原因と感じています。</p>
会長	<p>逆に軽くなっているケースはありますか。</p>
事務局	<p>更新申請では要支援1の方が非該当になるケースもあります。また要支援2の方が要介護になるよりも要支援1になる数が多いです。</p>
会長	<p>統計上はそういう実態だということです。 他いかがですか。</p>
●委員	<p>認知症サポーター養成とか認知症の家族の集いが、平成29年度には35件でしたが元年には24件に減っています。初期集中支援の開催、地域支援ネットワーク会議の開催も29年度は6回が元年には4回に減っています。何故そうになっているのか教えてほしいと思います。</p>
会長	<p>時間がかかるようでしたら、別の方のご質問を先にお聞きします。</p>
委員	<p>報告ですが、新型コロナの患者さんが2名出て、職員も2名うつりました。そこで止まったのでクラスターにはならず、一安心しています。色々な学びがありましたので機会があればご報告したいと思います。</p> <p>うちは予防に全力を注いでいます。気を付けている方は自主的にするのですが、してほしい方が参加してくれない。そこをどうしてやる気にさせるのかを一生懸命やっています。今、畑づくりもしてどんどん元気になっていますが、結局しない方は男性の方です。男性は賭け事や商品に弱いので、スタンプラリーをしています。いきいき百歳体操も予算があればイベント事をするとか、スタンプを貯めるとか、目的は不純でもいいと思っています。動いてもらうこと、何かをしてもらうことで元気になっているデータはあるので、予算が付くのであれば何かしてもいいと思います。</p> <p>あと、うちは地域にホールを開放していますが、コロナの関係でストップしてしま</p>

	<p>います。広い場所が必要になるのではないか。狭い場所では感染リスクが上がるので止めておこうとなります。正しい理解と適切な場所も必要なので、お任せだけでなく予算をつけて仕掛けづくりと一緒にしてもらえればと思います。</p>
会長	<p>参加しない方が課題ということです。どうインセンティブを与えて参加してもらえるか、その工夫が求められていると思います。確かに予算を付けるのはそのとおりですが、市の施策で余っているキャラクターの景品が結構あると思います。それを活用するとか、色々な工夫ができると思います。</p> <p>●委員への回答はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>まずサポーター養成の延べ人数の減少について。29年度は1,925名養成、講座の回数は31回でした。30年度は945名、22回の開催、令和元年度は1,333名、42回の開催です。どうしても年度によって開催回数に波があり、1開催あたりの参加者も幅があります。特に小中学校等で行った場合は、一気に養成が進む場合があります。認知症支援ネットワーク会議の開催数も29年度から1回ずつ減少しています。平成30年度の途中から、それまで2か月に1回開催していた会議を3か月に1回に変更したことにより減少しています。その会議の場を借りて認知症初期集中支援事業の検討会も開催していますので、それに伴って減少しています。</p>
会長	<p>よろしいですか。</p> <p>他はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>運動機能があるデイが今後増えればいいと思います。料金が1割～3割の方がいると思いますが、今後介護保険料が増えていく可能性はあるのですか。</p>
事務局	<p>国の通知と情報を元に進めていますので今のところその話は聞いていません。ただ報酬等については処遇改善の関係もあり、昨年出てきています。同じ割合であっても報酬が上がると負担がやや増えることはあります。</p>
会長	<p>まだお話しをいただいていない委員から何か一言でもあれば。</p>
委員	<p>介護の世話になるのではなく、予防で済めば一番理想です。そういう意味で総合事業の人材の確保について、第8期計画で具体的なビジョンはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>まだ道半ばではありますが、総合事業に取り組んでいます。緩和型サービスができることは逆にプラスに捉え、生活援助支援者養成研修を実施しています。今回は30数名程度参加していただいています。コロナの関係もあるので募集人員を考えなが</p>

	<p>らですが、周知を図りながら実施しています。今日が第 11 回目の最終日になります。研修を受けられるとヘルパー資格がなくても緩和型サービスに従事できるし、また介護の仕事への理解、場合によっては施設への就職に繋がります。3日間の講習後にPRする施設を募集して、関心のある参加者が面談を行えるようにしています。</p>
会長	<p>緩和型がまだ普及していませんが、岸和田市は回数を重ねているということです。そのあたりをコーディネートしながら、どのように人材を養成していくのかが一つのポイントだと思います。</p>
委員	<p>私は健康と運動の関わりを何十年もやってきています。その中で健康で長生きできる期間をどのように延長していくのかを 20 数年やっています。データとしては、本市の高齢者を使ったデータがあります。簡単に言うと、元気で長生きできる期間を延長する、運動との関わり、健康との関わりでみた時に、メンタルなものと同体的なものを掛け合わせて、高齢者で運動しているグループとしていないグループを2年間追跡しました。その人達の意識、自由度、不自由を感じるということがどうだということ、運動グループはそれプラス運動をかけました。その結果だけを申し上げると、やはり運動しているグループは2年後には呼吸器活量3種類は右肩上がりです。意識的には不自由を感じるものが少なくなっています。ですから非常に相関関係があります。運動を全くしていないグループの2年後は、呼吸器活量3種類は減っています。あと不自由を感じるものが多くなっています。結論を言うと、健康で長生きできる期間を延長するために運動の関わりは非常に大事です。ほど良い運動と気分が爽快になることも含めて、肉体的・精神的にも向上することがデータで出ています。かみかみ、百歳もそうですが、そういうものを反映させて現場の整備が上手くいくことが一番だと思います。</p> <p>あと1点、どのように意欲を反映させるのか。インセンティブを与えることは必要ですが、本当のところ何故運動が必要なのか、90歳になってもまだまだ運動効果が上がることをしっかりとご理解いただければ運動はできます。ご理解いただけなければできません。</p>
委員	<p>運動だけでなく、趣味をお持ちの方、そうでない方、動いている方、動いていない方の差は大きいです。同じ70歳でもかくしゃくとされた方もいれば、そうでない方もいます。私の妻がヨガやスポーツ関係をしています。ちゃんとトレーナーがいて皆でワイワイガヤガヤやっている中で非常に活発になってきました。ただ言えるのはちゃんとしたトレーナーの存在です。それから歳をとってからのではなく、若い時から趣味を持って何かをしようという施策があれば、皆健康にやっているとしたいと思います。若い頃からそういう意識を植え付けていくことが重要な気がしま</p>

委員	<p>す。</p> <p>先ほどから色々なご意見が出て、なるほどと思いながら聞いています。コロナが蔓延して私達の活動もスムーズにいかなくなっています。地域の会館が使用できるようになったと思えばこの1～2週間またすごく増えたので停滞しています。民生委員や地域のボランティアでなるべく高齢者の方に出て来てほしいと思っているのですが、コロナの関係で不安になられる高齢者が多いです。そういうことを踏まえて、介護保険課から上手な地域開催の方法、これから高齢者が上手に生活していける地域づくりのアドバイスをお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>仕事をしたい、まだまだ働けるとおっしゃる高齢者がいらっしゃいます。シルバー人材センターの充実非常に期待しています。第8期計画の取組方針で、各地域でもどんどん動ける高齢者が誰かのために役に立てる取組の強化を期待しています。コロナの第1派の時に職員がマスクを作りだすと、80歳を超えた入居者の方がミシンを持って来て毎日一緒に作ってくれました。1人がしだすと、他の入居者の方も出てきて、それぞれの役割が各テーブルできあがった状況があって、そこから学ばせてもらいました。人のために役に立つことに生きがいを感じられて活性化してくる。私達もその姿を見て学ばないといけないと感じました。</p>
会長	<p>改めて地域活動の大事さ、特にシルバー人材だけでなく多様なNPO等で働きたい、生きがいを感じたいと思われている高齢者をどう活用する仕組みをつくるかが次のポイントだろうと思います。緩和型を進める時に、そういうところの出口をどうマネジメントしていくか。これは地域包括のところとも連動してくると思います。要支援の方がちょっとしたサービスで元気になれる、そういう方々を低コストで利用したいという人材とどうコーディネートしていくか。このあたりが介護保険料を軽減する一つの役割でもあると思います。</p> <p>○委員に最終まとめていただきたいと思います。</p>
委員	<p>特に後半は健康維持のご質問等が多かったように思います。統計を見ると、人口減しつつ、かつ75歳以上の人口が増えてきている。全体的に少子高齢化があると思いますが、このままでいくと介護保険料が上がっていくのは必至のパターンです。そうすると全体的には要介護度を下げていく方向性が一番良いということはわかります。果たして、いきいき百歳体操等に効果性があるのかどうか是非とも一度調査してもらえたらと思います。高知市が確か統計を出していると思います。他にも先進的にされている自治体は統計を出しているのですんなりに難しくないと思います。それを出すと計画も明確になってきて是非ともやりましょうという推しになると思っています。私は社会福祉学の人間なので、切り口がどうしても社会モデルに</p>

<p>会長</p>	<p>なります。単純に悪いところを直すのではなく、社会の地域や施策を用いて介護度を下げていく働きかけは持っておかないといけないと感じました。</p> <p>可視化という言葉に尽きると思います。やれば効果があるということを普及させていくことがインセンティブを与えることになると思います。2つ目は、先ほどの指導者の必要性です。知っているけどやらない人をどうするのか、あるいは知っているけどやり方を知らない場合も色々な方法があると思います。そういう地域づくりが次の人口減の中で高齢者の介護問題を考える時の一つのポイントになると思っています。健康と運動の連動も含めて、今後第8期の中で地域の活力をどのように引き出していけるかが勝負だと改めて思ったところです。</p> <p>最後にこれだけは言っておきたいということがあればお受けしたいと思います。ないようであれば、「(3) その他」について事務局からお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>送付資料の最後に載せている岸和田市介護保険事業運営等協議会委員名簿のお名前と肩書についてご確認いただき、間違い等があれば教えていただきたいと思います。</p> <p>次に今後のスケジュールについて確認します。</p> <p>本日ご報告した第8期計画素案のパブリックコメントを、1月4日から2月3日まで1か月間実施したいと思います。素案と意見公募用紙は、本市の広報公聴課の情報公開コーナーと介護保険課、山滝支所と各市民センターに備え付けるほか、市のホームページにも掲載します。パブリックコメントの素案の内容は、前回7期計画と同様に12月上旬に確定する介護保険事業報告9月月報を元に反映させたものに計画値を修正したいと思っています。また素案についてはこれから大阪府と法定協議になりますが、追加修正が生じる場合は修正したいと思います。委員の皆さまには、今回の会議録を送付する際に最終パブリックコメントをする素案の内容について再度郵送したいと思います。2月の協議会においては、そのパブリックコメントの結果報告と素案の最終案について報告したいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>このスケジュールでよろしいですか。</p> <p>これ以外に何かご意見があれば、後ほど事務局に寄せていただきたいと思います。</p> <p>以上で第3回会議は終了になります。</p>